

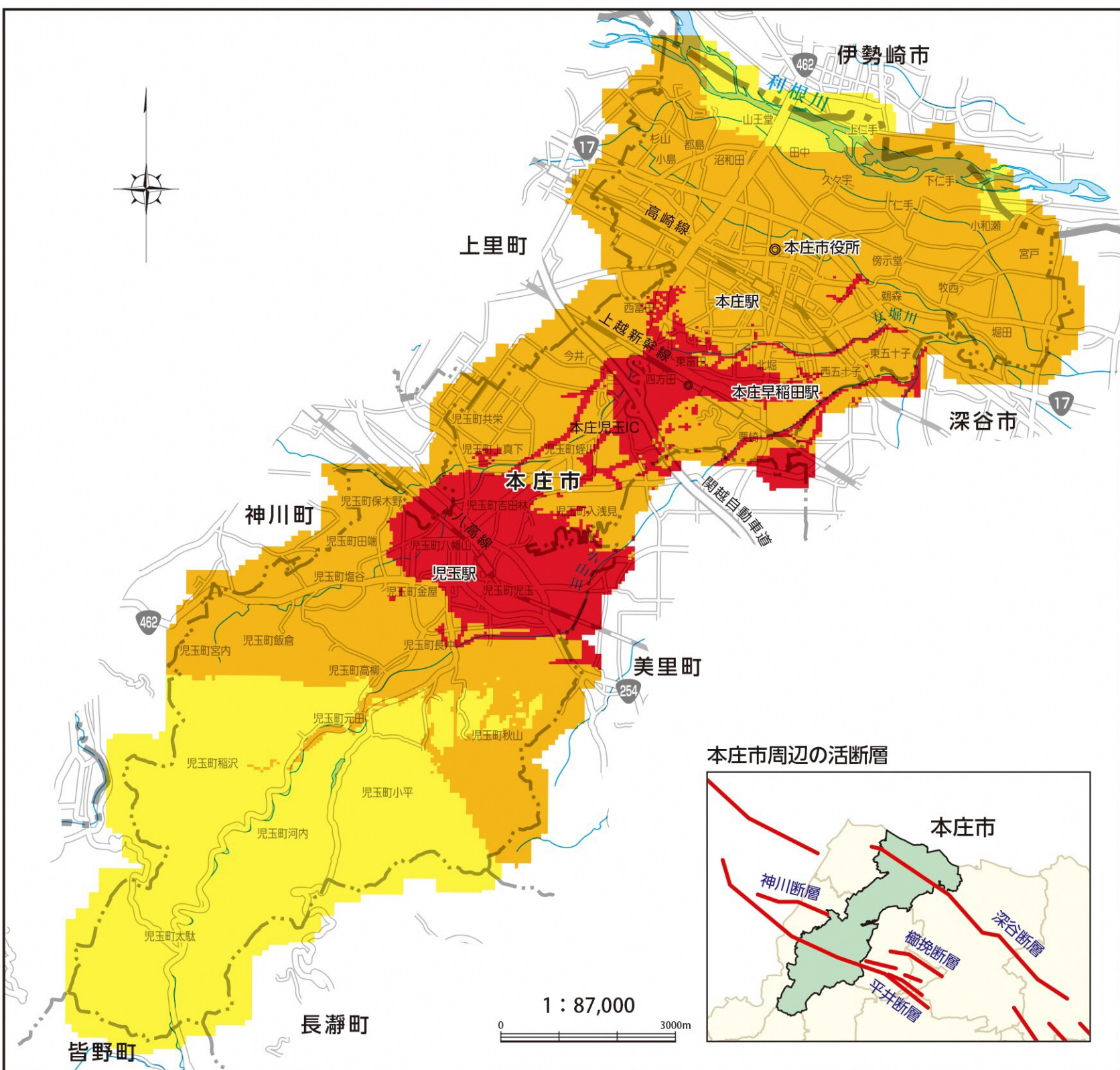
地震ハザードマップ

揺れやすさマップ

「揺れやすさマップ」は、関東平野北西縁断層帯による地震(マグニチュード8.1、破壊開始点を北側に設定した場合)が発生した場合に、地域の地盤の状況とそこで起こりうる地震の両面から、地域の地表の揺れやすさを震度として評価し、50mメッシュで表現したものです。

震源の位置や地震の規模により、実際の揺れはマップに示した震度よりも強くなったり弱くなったりすることがあります。

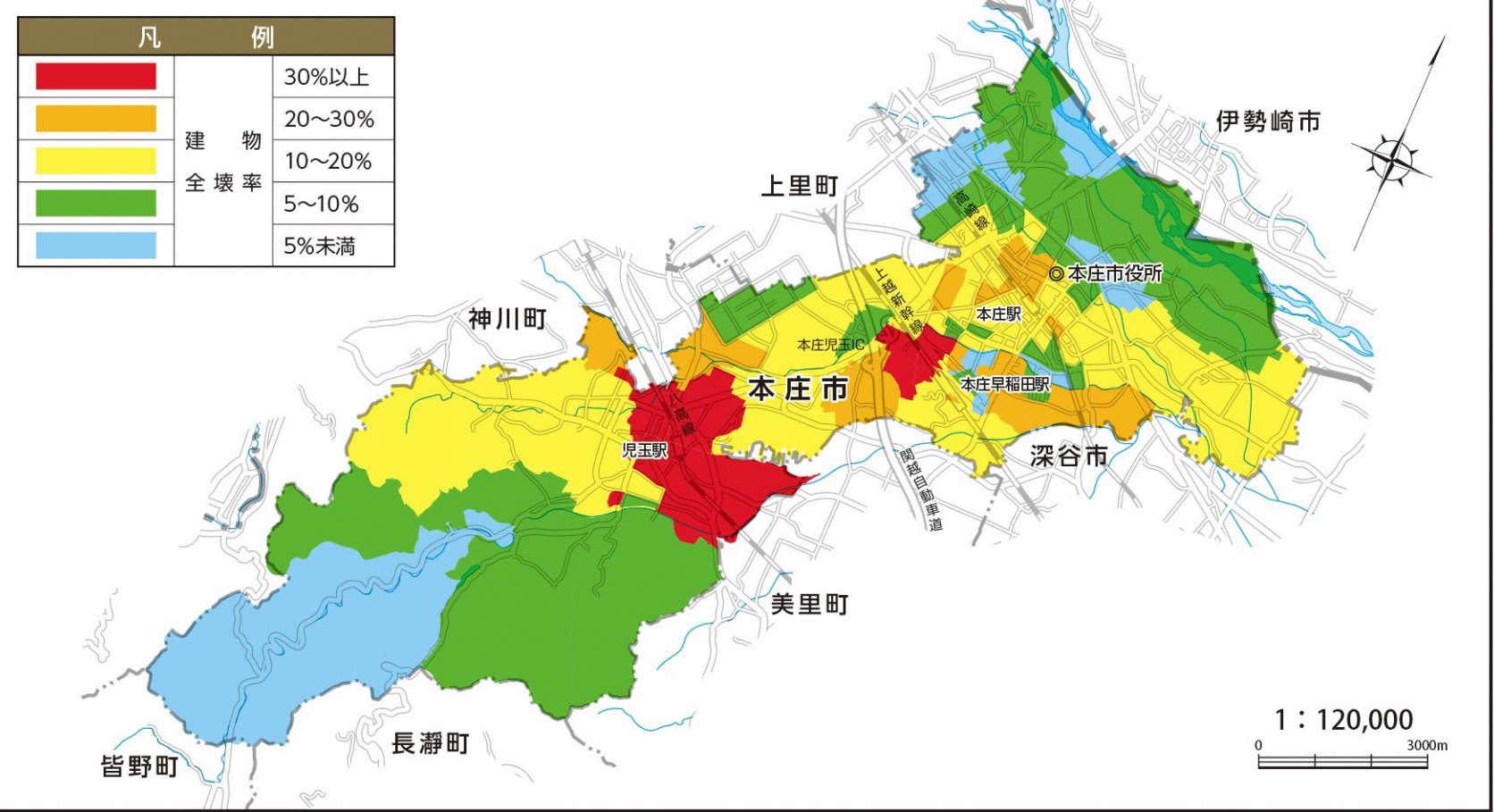
震度5弱	震度5強	震度6弱	震度6強	震度7
• 大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 • 棚にある食器類や本が落ちることがある。	• 物につかまらなと歩くことが難しい。 • 固定してない家具が倒れることがある。 • 補強されていないブロック塀が崩れることがある。	• 立っていることが困難になる。 • 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。	• はわないと動くことができない、飛ばされることもある。 • 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山林の崩壊が発生することがある。	• 耐震性の低い建物は、傾くものや倒れるものが増える。



※関東平野北西縁断層帯:深谷断層と綾瀬川断層を一体の断層帯として想定

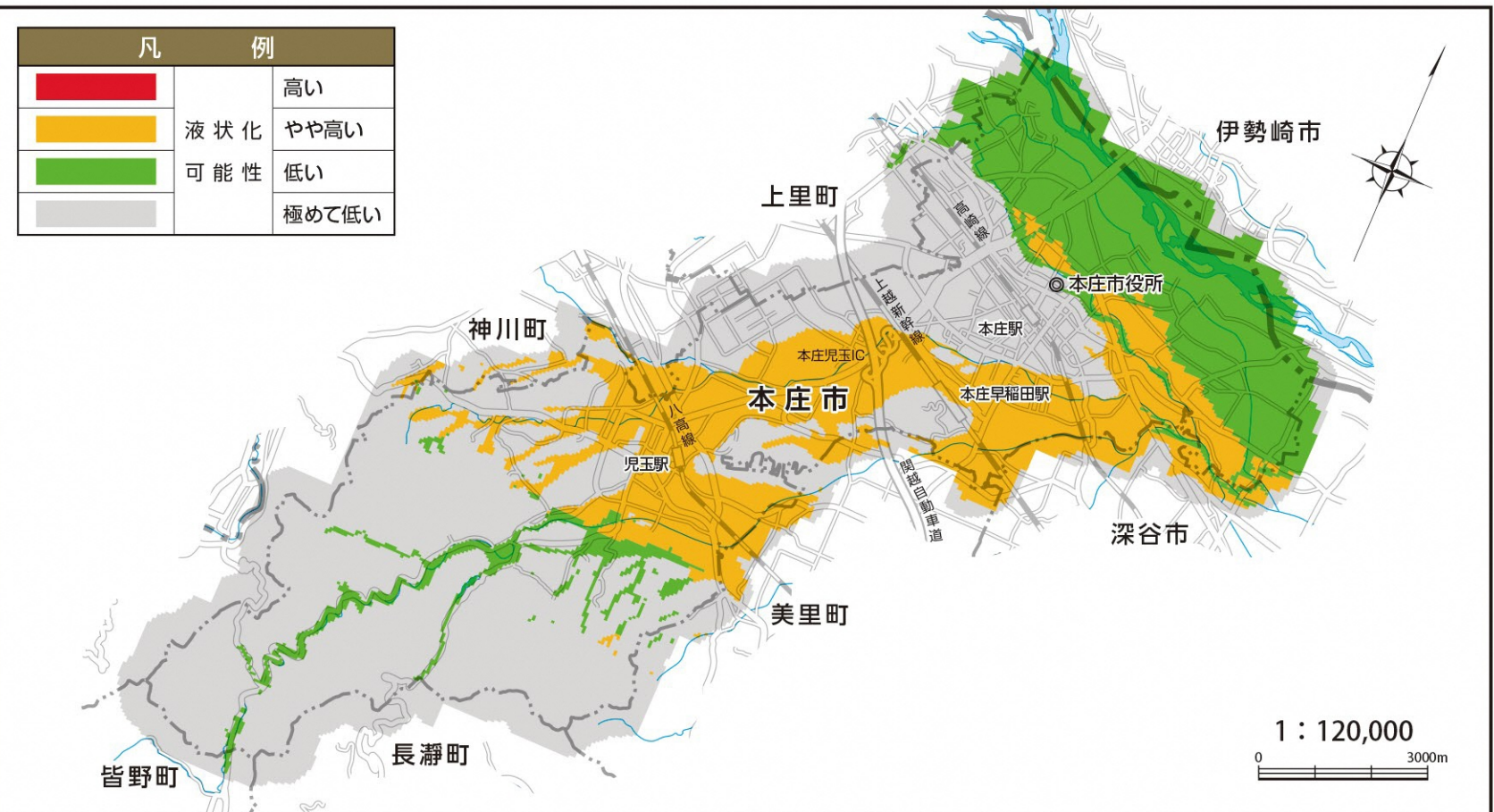
建物全壊棟数分布図

この地図は、地震震度分布図の震度分布をもとに、構造別・建築年次別の建物データから倒壊被害の危険度を予測し、町丁目別に表示したものです。昭和56年5月31日以前の建物の割合が多い区域は、危険度が高く表示されます。



液状化可能性分布図

この地図は、地形データ、地質データ、地下水位データ、想定される震度をもとに液状化可能性を判定し、250mメッシュで表示したものです。



出典：防災アセスメント調査報告書(R6.3)(本庄市)